

「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」開催報告

2012年3月19日

枝廣淳子

1. 目的・経緯

○現在、政府は「2030年までの日本のエネルギー」をどうするかという、エネルギー基本計画の策定に向けて、資源エネルギー庁の基本問題委員会で議論を進めているが、委員会の25人の委員の中に女性委員はわずか4人と、世代的にも偏っているため、女性や若者の声をあまり聞くことのできない構成になっている。

○今後の日本のエネルギーをどうするかは、あらゆる人に影響を及ぼすことであり、性別や世代などを含め、広く国民的議論をおこなって政策に反映すべきとの観点から、まずは、女性たちがエネルギーをどのように考えているのか、どのような基準でエネルギーを選びたいと思っているのか、エネルギーについて考えるためにどのようなデータや事実を知りたいと思っているのか、をざっくばらんに語り合う会を1月31日に開催した。

※報告書や当日の様様（動画）は以下のサイトに掲載

http://ishes.org/news/2012/inws_id000267.html

○そして今回は、2030年にまさに社会の中心を担う現在10代や20代の皆さんに、「大事だ」「みんなで作るべきだ」と思うエネルギーの問題や選択基準について、そして、どんな社会や未来になってほしいのか、などを出し合う会を開催した。

2. 概要

○日時：2012年3月17日（土）13:30～16:30

○場所：こどもの城 9階（902-903）

○主催：有限会社イーズ「幸せ経済社会研究所」

○協力：NGO ジャパン・フォー・サステナビリティ（JFS）

○ファシリテーター：枝廣淳子

○オブザーバー：定光裕樹氏 資源エネルギー庁・総合政策課 戦略企画室長

松山大貴氏 資源エネルギー庁・総合政策課 室長補佐

田附千絵子氏 資源エネルギー庁・総合政策課

糟谷敏秀氏 電力・ガス事業部長

森本英雄氏 原子力立地・核燃料サイクル産業課長

市ノ渡佳明氏 原子力立地・核燃料サイクル産業課長補佐

○参加人数： 34名

高校生 12名

大学生・大学院生 17名

10～20代の社会人 5名

○当日の流れ：3～5名ずつで8グループを構成

13:15 開場

13:30 開始、挨拶

13:40 基本問題委員会の議論と進め方についての報告

14:00 エネルギー・ダイアログ 1

① エネルギーについて考えることはなぜ大事なのだと思いますか？

② あなたが「大事だ」「みんなで考えるべきだ」と思う、エネルギーに関わる問題は何ですか？

③ エネルギーは何のために使われているのでしょうか？

④ それぞれのエネルギー源の「優れたところ」「リスク（危険性）」を挙げてください。

－化石燃料（石油、石炭、天然ガス）

－原子力

－自然エネルギー（太陽光、太陽熱、風力他）

全体共有

（休憩）

15:10 エネルギー・ダイアログ 2

⑤ これからの日本のエネルギーはどうあるべきだと考えますか？（理由も挙げてください）

－「どのくらいの量が必要なの？」

－「それを何でまかなうの？」

⑥ 2030年という先を考えたとき特に大事だと思うのは何でしょうか？
基本問題委員会に何を重視して議論してほしいですか？

全体共有

オブザーバーから挨拶と感想

16:30 閉会



※今後、当日の動画映像を「幸せ経済社会研究所」のウェブサイトに掲載する予定です。

○当日の参加メディア：4社（新聞、雑誌、業界誌、インターネットメディア）

3. 終了後アンケートに寄せられた感想（抜粋）

- 自分では考えつかないようなものが多く出ていて驚かされ、また自分はまだまだ考えが足りていないと感じました。やはり人に必要なことはどの時代でも幸せであることだと改めて気づきました。どんな経済であろうと、最終目的は幸せだと思います。エネルギーの議論をすると、そのエネルギーが何に使われるのか、という話になり、最後は必ず、どういう生活をおくりたいか、という話に行き着くことに気づいた。
- 自分も、「身のある議論をすること」——はっきりとした知識を身につけ、現実的かつ夢のある社会創造に貢献したいと思う。
- 3.11 後エネルギーや原子力などの情報、イベント、講演会は多くなりましたが、すでに専門としている方の話に触れることが多く、なかなか素朴なギモンを口に出すことができませんでした。今回、同世代の方々とのダイアログを通して共感できる意見に多く出会いました。有意義な時間をありがとうございました。
- 改めてエネルギーの今後を考えるよいきっかけになった。同世代と“エネルギー”をネタに話すことはあまりなく、みんなの価値観がわかってよかった。このような場は少なからず必要だと思います（政策を考える人へインプットするという意味でも）
- 今後、日本に生きていく若年層の意見をどんどん採り入れ、さらに発展させてもらいたい。
- エネルギー問題について仲間と議論することで、新しい視点や考え方を身につけることができて、大変よかった。ただし、せっかく問題について議論するのだから、「必要な資料」を赤ポストイットで吸い上げるのではなく、用意してほしかった。
- いくつもの意見があって、これをまとめるのは大変なことだと思った。しかし、今はまとめる必要はなく、何より、多くの方々と意見を交換していくことが、「この時間」が、今の日本に必要なのだと思います。とても楽しかったです。
- 若者といっても様々な考えがあって、とても参考になりました。この多くの考えや意見を共有できる場がもっとももっと増えたらと思います。
- 同世代と熱く未来について話し合えたすばらしい機会となった。また、多くのオブザーバー、特に日本の政策策定をしている人々が立ち会い、私たちの考えに耳を傾けてくれたことは、この会が一過性のものではない、価値あるものであるように思えた。



【日本のエネルギー政策策定への希望】

- エネルギーを選択できる社会を希望します。国民の民意は今、引くかもしれません。でもそれにあわせた社会を作ると悪循環が生まれます。先を行きたいです。
- エネルギーをどう供給するか、以上に、どう節約するか、という議論もしてほしい。
- 自国の経済発展、エネルギー自給を見るのではなく、アジア地域、海外との関わりを考えてほしい。
- 地域が原発に頼った経済になるのではなく、エネルギーを安定し、雇用も安定するような自然エネルギーの普及。
- ぜひ若い年代の人たちの意見も反映してもらいたいです。そういった年代との交流会・意見交換の場を設けてもらえればと思う。
- 化石燃料や核燃料など、将来に禍根を残さない政策を大事にしてほしい。
- 人々のつながりを大切に、思いやりのある社会を作るということを考えてほしい。どんなに経済状態がよかろうが、暮らしやすい世界にはならないと思います。逆に、思いやるあたたかい社会であれば、エネルギー問題があってもみんなで解決していこう!!!という状態になると思います。一番よくないと思うのは、自分には関係ないと思ってしまう人がいることです。
- 我々の世代より若い世代のことも、ぜひ頭のどこかに置いていただけたらと思います。
- エネルギーを選択できる仕組みを構築してほしい。
- 経済をただの資本主義でなく、環境という価値をもっと高いところに置いた経済モデルを使ってほしい。
- 対話の場づくりを希望します！
- 今回のような会を続けてください。



以上

高校生

インターネットが本当に必要になることを恐る。(高齢者のための、成長不自由な方向でいい。)

⇒ 元々人口が少なくてインターネットを普及して、助け合う。
⇒ 思いやりがある社会。

人との水合わせを増やす。
携帯電話などの通信機器も使えない。
インターネットの削減。

政策 とか (国として...)

人との水合わせを持つために...
通信機器を活用しにくい。

情報(開示)? (必要な情報) (取捨選択)	国の利益とかだけじゃなく、流さない政策	自然を増やして、能くどきどきおこなう。
効率重視の生産や政策でいい。 特に弱い立場の人を大切に思っている。	今、どう生活するためにインターネットをどう使うかは、早く決めた社会の為のことにする。	インターネットの使い方について、個人の意見を反映させてほしい。

高校生

増え続ける高齢者の支え方、年金。

問題がいろいろある、解決できるという希望があること。そして、自分の意見を自由に言える社会。

外国に流されない日本

社交性の高い人56%
はいはいすること。
↓
笑みまえることにつながると思う。

無理をしすぎず
人にも環境にもやさしい社会。

(他人に依存しすぎない、でも必要に応じて頼れる人がある)

高校生

幸せとは。

国や世界の問題も自分のこととして捉えられる社会

自分の子や孫の世代が不安、極端に少なくて生活できる。

自分の北極圏でいい。他人のことも国が全体のことも大切に思える社会

個人の幸せ。

一人一人がそれぞれの人を思いやり、大切にできること。見知らぬ人とも優しくなること。

★幸せとは、
人と人が水合わせで、自然が近くに暮らすこと。携帯電話などの通信機器に頼らない。

高校生

幸せ
仲が良いいこと。
人との水合わせ

幸せ
雇用の問題の解決
就職率 → 希望が持てる社会

ニュージーランドのように国民幸福度が高いこと。

自分の国に誇りを持つこと。

他とコミュニケーションをとる社会

食料自給率
日本の農家、第1次産業の安定

大学生・大学院生

エネルギー自給率の増加	製造する側に助成金			
環境教育を徹底	「経済活性化とリンクした金の使い方	自エネ不安だとしても不安でもよいように導入!	自然との共生 新たなよい効果! いまし...etc.	スマートグリッド 省エネ
		どこが不安定をも導入していいのかわかる調査	課題がありとも増やしていく工夫。(自エネを)	

大学生・大学院生

自然エネルギー業者がもと参入しやすい仕組み作り	この建物はどの時間帯にどれだけ電力を必要?	新規電力事業者の参入をうける		
消費者が自然エネルギーを買いやすい仕組み作り	送電網の国有化	国民一人一人に対する意識改革	供給する側と使い側の密にコミュニケーション	建物の省エネ化をもっと促進!
		経済成長の必要性や意義をもう一度よく考えて欲しい	スマートグリッド導入のための基礎調査	目先のことをとりあず"処理する"というのでもよく、"どういう国にしたいのか"という大きな視点で考えてほしい

大学生・大学院生

そもそも経済成長は絶対必要?	確保すべきエネルギーだけでなく、必要とすべきエネルギー量にも目標を	日本に合ったエネルギー源を選んだエネルギー政策	賃貸住宅の屋根は公のものとして活用	
ゼロ成長でも成り立つ社会・経済のしくみ	中央からの予算だけでなく、地方のボトムアップによる計画の策定			
人の生き方(価値観)の多様性の尊重				
最新の生活に必要なエネルギーの確保	エネルギー選択の主権を地球個人に	倫理(世代間)		
企業へ影響したい(経済活動へ)エネルギーに確保。(外資まで含める)	持続可能(将来的に安定供給が可能な)エネルギー	将来世代への影響		

大学生・大学院生


健康で文化的な生活、笑いながら暮らせる社会	GDPが下がることを恐れない!	海外の真価はわかりはる、日本の長所も活かして(地熱とか)	ストック資本の充実(住宅インフラ)	
自然エネルギーの普及を妨げない仕組みづくり	自分の住む地域を大切にしたいエネルギー供給			
		公式プロセスに若い世代の意見を	成長分野への投資(RE)	将来世代の健康
		最終処分	正しい情報開示が大切	「日本」の発展のみを重要視しないエネルギー外交政策

「枝野大臣と基本問題委員会のみなさまへ」

- 私が一番に考えてほしいことは、
- 私たちの世代が受け継ぐことが出来る
- エネルギーを考えてほしいということです。
- 私たちは学校でこのような問題について
- 考える時間を設けられていません。
- だからこそ、考える時間や対話の時間を
- もっと増やしてほしいと願っています。

18歳 学生

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

枝野大臣と、基本問題委員会の皆さんへ

- 「エネルギーの使用量が増える＝幸せ度が増える」とは
- ないということ。「私達も、幸せな将来、自分の子供か、自分
- 達と同じ不満を抱かない将来」を望んでいる」ということを
- 今日改めて感じました。ですから、GDPの向上や、経済の
- 発展も大切かもしれませんが、それよりも、国民が希望する
- 未来から逆算して、エネルギーの限度を視野に入れた、
- 現実的で、弱い立場の人を大切にしたい政策をお願いします。
- 凛然としていて申し訳ないですが、私達が望んでいることにも耳を傾けていた
- とき、2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」
- 外国に流されず、ほれる日本が良いです。

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

16歳

枝野大臣と基本問題委員会のみなさんへ！

エネルギー問題を考え上で「経済について」と「環境について」の二つ

が大きな軸になってくると思うのですが、現在の資本主義では二つを両立させる

は難しいと思います。その解決として、増産消費の伴ったエネルギー経済を

同じで環境負荷が大きい状態でも、消費の際には環境配慮の物と安い物と

選んでいくための制度が必要だと思います。環境配慮型の資本主義を日本の

世界に先導して、世界のグローバルスタンダードになることを考えます。

この価値観の変わりが期に、新しい価値観として、資本主義ではない

自然と共生できる環境配慮型の資本主義の使い方を日本から世界に提案して下さい。

2011
大学生

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

枝野大臣と基本問題委員会の委員のみなさんへ

このエネ若委員会に出席し議論に参加させて頂いたことと

感謝の気持ちを込めてお礼の言葉を申し上げます。ありがとうございました。

思いのほか、どの国も、どの企業も、どの団体も、枝野大臣を応援して下さい。

私のように立場の異なる人々も、皆互いの立場での若者意見に賛同し意見を

述べたいと思うのでお互いに声をかけ合える作業は（この中で互いの立場の中

でもお互いを尊重し）議論の場の中にこれだけの意見を出して頂く

18歳

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

枝野大臣と基本問題委員会のみなさまへ

そして、もう一つはどうか? という
国民的議論をおこなうか? という
ことである。具体的な提案として、

ここに示す、エネルギー^{基本}計画をたてる上で、私はやはり
 今の価値観を一度見直し、何を大切に取るのかということをお
 考えたい。どういったエネルギーを使うか? という議論をすべきだと
 思います。そして、若者の一人としては“命”や“幸せ”、“人を傷つけない”
 “身のたけに合った”^(生き方)生活という価値観にもとづいて考えてほしい
 と思います。なぜならば、これらの生き方は小さい頃から私たちに
 大切にしたいものがよいと教えてもらって来たもので、私も大切にしたいので
 あります。

↑まとまった情報
 提言を、人々
 の間でエネルギー
 についての学びを
 深めてから、
 各地域で対話
 の場をつくること
 である。そして、
 うものつくりとまに
 同じ説明を異なる
 二者が垂
 して

どこかと思いきや! ^{また今度}提案地では!! 19歳 大学生 ^(その冊子には)しおりより

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

幸せ経済社会研究所
 Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

日本語が
 いろいろ
 あります
 みません

枝野大臣、委員会の方々へ

一高校生としての意見ですが、私たち
 高校生の意見も政治に是非反映していただ
 きたい。政府の方々に、広くアンテナを張って
 もらい、高校生が行うフォーラムや意見交換会に
 参加して下さればと思っております。

(18歳・男)

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

幸せ経済社会研究所
 Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

枝野大臣と基本問題委員会の委員のみなさまへ

「今後の日本という国の将来を考えるにあたり、
国民一人一人が憲法に掲げられている
健康で文化的な生活を享受できることを満
たしかつそれが持続可能であることを願
います。特に、原発の新規建設の中止や、
地域経済に配慮した自然エネルギーの導入、
送電網の公有化など、全体としてうまく
まわるような政策の実現をお願いします。」

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

千葉大学 工学部 4年

 幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

高校2年

私たちがのような高校生にもこのようなエネルギーについて考える
機会をいただいたことに本当に嬉しく思います。専門的な知識
はないし表面的な議論だったかもしれませんが、個人的には
「幸世」の何がなのか、一番大切にすべきことは何なのかを最初
に考えることが大切だと思いました。そうするとおのずか議論が
それ以上の優先順位を決定すると思われ、国の問題も自分の問題として
考えられると思えます。これから積極的に情報を得ようと思えます。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

今春からのエネルギーの「国民的議論」においては、現在の公式の検討プロセスにはいない、若い世代の声を集めるプロセスを作ってください。パブリック等もありますが、そもそもパブリックの制度自体を知らない若い世代が大変多いと感じています。若い世代、専用の公式プロセスが必要で、2030年、2050年に何歳かということも考えて若い世代としても責任ある議論を今しなければならぬと感じています。よろしくお祈り致します。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

(25才・男)

23歳・男

エネルギーを考えたこと。どうしていくかということ。これは3.11を経験して、日本が今後どのように成長していくかに不可欠とも重要なことだと思います。中々の時間がかけて、国とあわせて大々的に「国民的議論の場」を作っていくにはいいですね。XやYを使ってPRしましょう。世論調査は絶対的な意味がなくて、「議論」としましょう。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

- ・エネルギー政策を策定するにあたって、考えるべきことは多くのことがある
- ・と思います。しかし、いくつか「この点だけは」忘れてほしくないポイントと下に
- ・書きたいと思います。「国民との対話の場」、「自然との共生」です。
- ・1つ目は、やはり信頼関係を構築させるためにも、国民と意見交換
- ・する場が不可欠だと考えます。次に、どんな課題があるにせよ、自然と共
- ・生していくとは第1に大切です。どんどん進めていってほしいと思います。



21歳 大学生

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

- ・経済成長(=エネルギー消費の増大)がなければ存続できない
- ・社会・経済システムに於ける以上、エネルギー問題の
- ・根本的な解決はない。しかし、現実問題として、ただちに
- ・ゼロ成長体制に移行するのは不可能である。そこで、
- 1. ゼロ成長となった場合の考えられるリスク
- 2. どうすればゼロ成長体制に移行できるか、実現できるか
- 3. 何年(何世代?)でゼロ成長体制への移行ができるか
- ・を、長々期的な視座で考える体制が必要だと思われる。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

それができれば、日本は世界に対して見本を示すことができる。 ( 東工大、24歳)  幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

これから日本を支える若者や子供の事を、
考えて、原子力や化石燃量の使用を確定
に減らして行ってください。~~次世代の借金と~~
エネルギー消費を減らす事に才と工夫を、
いらしてください。心を込めて、お願いします。

29枚のハーフ

2012年3月17日開催 「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

基本問題委員会をいつも現地で
拝聴しております。国民的議論をあるた
めには、本番の会合でも今日の会のように(後
で訂正)会場からの意見などをよく必要が
あると承知しております。フィードバックのうまいやう
に承知しております。 (23才)

2012年3月17日開催 「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

20才

一番に将来世代のことを考えた、持続可能なエネルギー政策を含めた

国家の政策をとってほしい。日本の目指すべき国家像を明確にしなければ、

その他の政策を定めることができず、国民もどこに向かえばよいのか、将来不変で

悪循環なのではないでしょうか。その国家像をみつけたために、国民的な議論も必要

だと思う。私は20才で、参選権があるので、今後の国家像を作らねばという自覚と将来世代への責任を持ち、考え、行動していこうと思っています。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

21歳

日本がどくいた社会を今後追いつめていくのか、

何を日本国民の「幸せ」とするのかが、エネルギーのあり

方を考える上で基盤になると「3G」と思っているので、しっかり

議論を深めていた方がいいです(安易に「GDP上昇=幸せ

とするのはよくない) また、国民がより主体性、責任感をもって

エネルギー問題に向き合うようにするため、国民に「選択権」
を与えることが重要だ”と思います。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

今の発電は、おおまかに 火力、原子力、自然
の3つで、火力は化石燃料があと52.7年
しかたないし、原子力もウランなどの危険物質をつかう
ので、自然エネルギーによる発電が将来のエネルギーの確保
になると思う。だから自然エネルギーによる発電の技術向上が重要な
政策を進めたいです。 from 16歳

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society


ニュージーランドという国を知ってます。そこは国民
幸福度が世界2位の国です。経済はそれほど発達して
いませんが、それはGDPが発達してなくても人民は幸せにな
るということを示していると思います。エネルギー問題も考
える時、「幸福」という視点からエネルギーも考えたら、結論
論が出るのではないだろうか。ぜひぼってほしいん...

16歳
2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

・アジアやヨーロッパ、アメリカなど大国の考え、意見にとら
 われずに、日本独自の考え、意見を持つことが「大事だ」と私は思う。
 ・これから先、日本におけるエネルギー問題は日々深刻になっていく。
 のではいけないかと思う。という目的と、という利点があるからこの方法を
 進めていく、という明確な理由をしっかりと提示してもらいたい。今後日本は
 若年層の意見等も取り入れ、良いものを作りあげてもらいたい。
 委員会会議のネット中継やページを公表している、という事実を国民に
 知らせ、国民との信頼関係を築きあげてもらいたいと思う。(16歳・高1)

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」


 幸せ経済社会研究所
 Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

・枝野大臣、ここにちは。事故後の冷静な姿勢が素晴らしい。

・私は、今後更に話し合われている中で、持続可能性を一番に

・考えたいと思う。これは自然との共存は50年先のことも、100年先まで視野を

・システムを作、2下さい。それ、自然の成長は止まらせないとしても、その以降

50年、100年先へは、良い真の成長を期待する。官僚や議員は、この
 利益が、国金、半永年を考えた。批判に、こんなこと思っているが、
 くいけ、にせよ楽しい日本を作、2下さい。期待している。このままでは、311の
 痛手を生かさない。米、に時は、人、に、何が一番重要なのか、50年後の
 日本にとって何が必要なのかを考えた下さい。自然エネルギーの無限の可能性に期待している。
 2下さい、50年先を願っています。

(17歳)

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」


 幸せ経済社会研究所
 Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

エネルギー問題を含め、
国先のことや、他人(or 国)の目を気にする
ことなく、「どんな国にしたいか」という大きな
視点で、新しい日本のスタイルを創り、ついでに
と考えています。
日本が「お茶やが笑顔あふれる国」になる
よう、私たち一人一人の声を大切にして
頂けたら嬉しいです。(24歳)

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

私は、社会において最も重要なことは「持続
可能」だと考えています。今のよい暮らしを
自分より後^に生きる人々にも体験してほしい。
それが最高の社会だと思います。その社会を構築
するエネルギー、しっかりと社会で造らせるもの
にして行ってほしいと思います。

19歳

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society


国民ひとりひとりが出来ることを具体的に提示して

ほしいです。協力したいけど、何をしたら協力できるかが

わかりません。どんな政策に関してでもです。

18歳 女性

2012年3月17日開催 「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

議論すべきことは山のようにあるにも関わらず、時
間もあまり多くはないと思います。エネルギーについて考える
時、「将来、どれくらいのエネルギーが必要になるのか」という
ことは人によって大きな差が出る。今のレベルの豊かさがいい
ものか下げても構わない、いや、もっと発展させたものにした
様々な意見があると思います。私たち若者はエネルギー
問題について考えることはもちろんです。しかし、その
国民の意見をまとめることができるのは選挙で選ばれた人
のみです。ぜひ、目先のことは「かりにとらわれず、これから
の長い将来を考えて議論を進めていってほしいと思います。
お願いです。(16才)

2012年3月17日開催 「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

いつも、私達の生活の為に働いて頂き、本当にありがとう
ございます。私は高校生なので、本当に非常識な所
があり申し訳ないですが、一つ強く思うことは、人々の幸せを一番大切
にして頂きたいということです。そして、その幸せがずっと先の世代まで続いたか
らいいと思います。また、このように私達の意見を聞いて下さる事が嬉しいと
おもうのですが、こういう場面がもっと増えればいいなと思います。それは、政府
だけでなく国民にも問題があると思います。もっと政府との距離感が縮むことを願っています。

16歳

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

地震国であり、海に隣接し津波等のリスクもある日本に
おいては、危険性の高い原発よりも、安全な太陽光、風力
発電等の自然エネルギーの導入比率を増やすことが必要と
考える。そのためには、不安定になる電力供給の融通が
可能となるよう、スマートグリッド化の促進が必要であり、
同時に、どのような建物かどの時間帯にとれたけ電力を使うか
といった、「消費者側の、基礎調査が必要となる」と考える。


22歳 男

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

まず、本日のような若者の声を聞く場は非常に
重要なので、ぜひ公的プロセスに組み込んで下さい。
私は原子力の立地地域の将来を危惧しています。
震災後の地域づくりも政府の支援が必要です。
また、政策変更に当たり、地域の間断が再び起るのほ
ど大きくおけるべきです。エネルギーに加え、環境や
バックエンド対策も一体に国民的議論をしていただくべきです。
（27才）

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 善世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

ぜひ、エネ若の集いのような、若者の声を聞く場を
政策検討の場にも入れていただきたいと考えています。
また、「エネルギー」やそれに関連する関係者/存在の役割、
存在の教育がいまどこにないか調査がほしい。ぜひ教育の中で盛り込
んでいただければと思います。
最後に、2030年、今の若者がたまたまこの社会に存在するべきかと思いつ
く世代のことも、頭を悩ませる議論と進んでいければ幸いです。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 善世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

一番エネルギー政策を考える上で大切なと思うのは、「日本の
将来ビジョン」だと思います。家庭でいえば、「皆がどこからどのレベル
の暮らしを求めているのか? 産業でいえば、「どの様な産業に立国して日本で
ありたいのか?」です。その考える過程で、「国民を教育すること、そして
その人達の意見を求めること、外国の中にモデルとすべきは参考政策を
みつけることが大切だと思います。国民の関心が高いので、是非意見交換の
場を活用して欲しいと思います。」

23歳

2012年3月17日開催 「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

善世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

10年後、20年後のエネルギーについて考えるとき、
「エネルギーをどうするか」という議論から始めるのではなく、
「どんな社会をつくりたいか」という大きなvisionから
議論していった方がいいと思います。そして10代、20代が社
会をどうしたいかという意見を取り入れ(公式に)て
いけるシステムを作ってほしい。議論の場に若者が入ること
から、日本のエネルギー政策は変わるのではないかと

20代 女性


2012年3月17日開催 「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

善世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

私は偶然ラジオを聞いてこの会を知りました。こ
うい
た会に参加する人は意識が高いことを身を持って感じ
ました。しかし、大勢の人は聞きかせ、専門の人が言うからと
いった考えの人が多くいます。(それでも批判は受け
ました)。
こうした人を今回のような会や議論の場へ引きつれた方法も
考えて下さい。エネルギーについては他の人もたくさん書いてると思う
ので上記の話題にしました。

大学生(22才)

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

今はチャンスだと思って、日本国が
豊かになるエネルギー政策を
立てて欲しいと思います。
具体的には、エネルギーの産業が
発展する仕組みも構築して欲しいです。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸世経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

25歳 男

政府と国民の意見交換はもう人、

省庁同士や国民と省庁や知識人での

知識・認識や意見の交換・共有を

もって行ってほしいと思う。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society

(22歳) さまざまな幸せの価値観が

あるなかで、よりよい社会をつくるため政

策を考えるのは困難も伴いますが、

国民vs政府とかいろいろ既在の

対立構図はとりはらって

みんなが考えて議論を重ねていきたいです。

2012年3月17日開催「若者の視点からエネルギーを考える～エネ若の集い」

 幸せ経済社会研究所
Institute for Studies in Happiness, Economy and Society